

国指定重要無形民俗文化財

猪俣の百八燈

毎年8月15日に行われている「猪俣の百八燈」。40年以上も受け継がれている盆祭り行事であり、平安時代の終わりから鎌倉時代にかけて活躍していた、武蔵七党のひとつである猪俣党の棟梁、猪俣小平八範（おのゝへ）およびその一族の霊を慰めるために行われていると伝えられています。

行事は、猪俣地区内の6歳から18歳までの青少年が、親方・次親方・後見・若衆組・子供組に分かれて行事の一切を取り仕切ります。

今年も、堂前山に百八の火が灯ります。

地元の若衆が、伝統を守り受け継いでいる瞬間と、暗闇に浮かぶ一列の灯火の幻想的な光景をぜひご覧ください。

8月15日(水) 午後6時30分〜



※当日は臨時駐車場をご利用ください。

準備

◆7月上旬〜 笛・太鼓の練習開始



◆8月初め 塚の清掃・道こさえ

塚やその周辺と、高台院から堂前山までの道に生えている夏草を刈り、前日の準備と本番に備えます。

※道こさえ……道づくりのこと

◆前日 人別・材料集め



人別と称される寄付金集めを行います。地元の家々から一軒あたり千円をもらって歩きます。

材料集めは、行事当夜燃やす麦わらと、塚の上に置いて火を灯す燈明の材料である急須・真わたをもろって歩きます。



役割

親方……参加する子どもの中で、年齢が一番上の子が務め、行事の指導・監督を行います。

次親方……親方の次に年齢が上の子が務め、親方と一緒に行事の取りまとめを行います。

後見……前年の親方が務め、百八燈の行われる日だけに参加して最高指揮をとります。

若衆組……小学校5年生から中学校3年生が務め、親方たちの指導のもと行事を行います。

子供組……小学校1年生から小学校4年生が務め、親方たちの指導のもと行事を行います。

◆前日〜当日 燈明づくり・わら山づくり



燈明とは、塚の上において火を灯すものです。現在は急須の中に真わたを詰めて灯油を満たして火を灯しています。以前は、お皿と菜種油、絹の糸を使用していましたが、火持ちを良くすることなどを目的に現在の形に変わってきました。

百八の火は、地元の人たちの知恵と、時代に合わせた工夫によって毎年灯され続けてきました。



◆前日 とり

猪俣中央会館で、一夜を共に過ごし絆を深めます。



◆当日 塚築き・松明作り

崩したりすれば病気になるというわれ地元の人たちが大切にしている塚も、一年間風雨にさらされ多少崩れている場合があります。



子供たちは、崩れた塚を直し、さらに芝と土が混ざったものを積み上げて立派な塚を築きます。



築いた塚の上に、前日から当日にかけて作った燈明を置いて歩きます。また、四基の大きな塚(五重塚・留塚)の上には薪を置き、灯した火が高く燃え上がるようにします。

本番

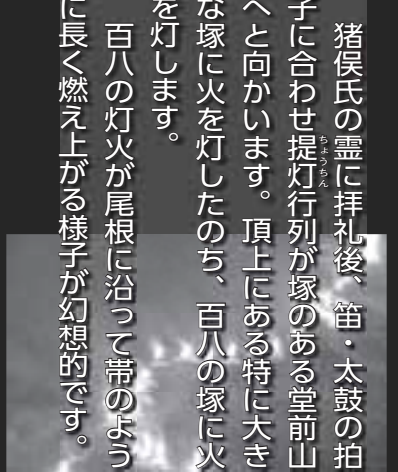
◆寄せ太鼓の披露

夕刻、高台院から力強い寄せ太鼓の音が鳴り響くと関係者が、皆集まってきました。



◆点火

空が暗闇に変わる頃、いよいよ百八燈行事の本番です。



猪俣氏の霊に拝礼後、笛・太鼓の拍子に合わせて提灯行列が塚のある堂前山へと向かいます。頂上にある特に大きな塚に火を灯したのち、百八の塚に火を灯します。

百八の灯火が尾根に沿って帯のように長く燃え上がる様子が幻想的です。

花火大会の中止について

毎年「猪俣の百八燈」にあわせて開催しております「美里夏まつり花火大会」につきまして、昨年の雨による中止を教訓に、町および美里町観光協会では、ご来場いただく方に安全かつ快適に花火を見ていただく環境を確保できるようにと開催方法を検討してまいりましたが、今後の「美里夏まつり花火大会」については中止との結論に達しました。

これまで開催できましたことは、町民の皆様をはじめ、多くの関係の皆様方のご支援・ご協力によるものと深く感謝申し上げます。「美里夏まつり花火大会」を心待ちにされている皆様には、お詫び申し上げます。ご理解を賜りますようお願い申し上げます。